

# 第5学年 社会科学習指導案

日時 2017年11月24日(金)

対象 5年3組(34名)

授業者 町田市立大蔵小学校 主任教諭 森内 陽介

## 1 小単元名 「情報を活用して発展する観光産業」(全8時間)

### 2 小単元の目標と観点別評価規準

#### (1) 小単元の目標

情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたり、まとめるとともに、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業と国民生活を関連付けてその役割を考え、表現すること大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解することができる。また、産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について、自分の考えをまとめることができる。

#### (2) 小単元の観点別評価規準

評価の観点	評価規準	学習過程の どこで
社会的事象についての 関心・意欲・態度	①観光等の産業と情報との関わりについて、主体的に学習問題を解決しようとしている。 ②情報を活用した産業の発展に関心をもつとともに、適切な情報を見極め、生活の中で情報を効果的に活用していこうとする。	①つかむ ⑧いかす
社会的な 思考・判断・表現	①観光に関する産業について、情報の種類や情報の活用の仕方等に着目して産業における情報活用の現状を捉えている。 ②情報を生かして発展する産業と国民生活を関連付けてその役割について考え、表現している。 ③産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について、自分の考えをまとめている。	②つかむ ⑦まとめる ⑧いかす
観察・資料活用 の 技能	①資料を活用して多様で大量の情報を情報通信技術で瞬時に収集、分析・発信して活用することで、観光等の産業が変化していることを読み取っている。 ②聞き取り調査をしたり各種の資料やインターネットを使って調べたりしたことを関連図にまとめている。	③～⑤ 調べる ⑦まとめる
社会的事象についての 知識・理解	①多様で大量の情報を情報通信技術で瞬時に収集・発信して活用することで観光等の産業が変化し発展していることについて理解している。 ②国民がコンピュータや携帯電話などの情報通信機器を利用することにより、いつでも、どこでも様々なサービスを楽しむことができ、生活が向上していることなどを基に、情報や情報通信技術を活用する観光等の産業の役割について理解している。	③～⑤ 調べる ⑦まとめる

### 3 小単元について

#### (1) 学習指導要領との関連

本小単元は、情報ネットワークを活用している事例として観光産業を事例として取り上げ、さらに、ビックデータを収集・分析・活用することを通して観光などの産業が発展し、国民生活の向上に役立っていることを追究するとともに、産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について自分の考えをまとめる学習展開を考えた。

#### (2) 教材について

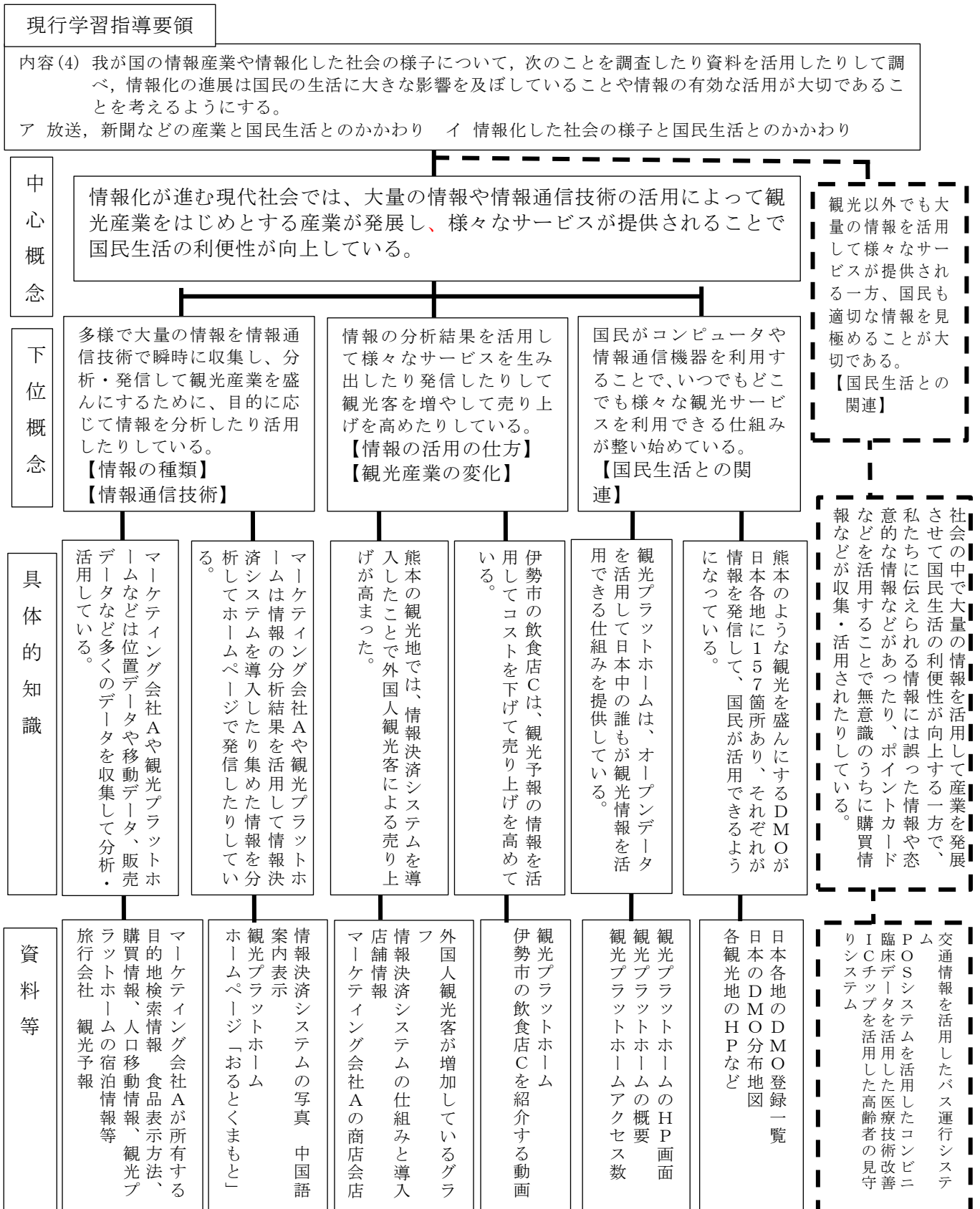
事例を選択するに当たって、新学習指導要領の内容に基づき分析し、事例地を選択した。そして、本小単元で取り上げる主な教材は「マーケティング会社Aが扱う情報の種類と情報活用の仕方」「観

光産業の変化と国民生活の関係」「情報アプリを活用して観光情報を発信している地域」「観光業以外の大量の情報を活用して産業を発展させていこうとする事例」の4つである。

#### 4 研究主題との関連

(1) 社会生活について理解を深め、社会との関わりを考えられる教材の工夫

① 社会的事象の見方・考え方（視点や方法）を位置づけた教材構造図を作成する。



(2) 社会的事象の見方・考え方を働かせる指導の工夫

① 目指す子供を資質・能力の3つの柱から以下のように設定した。また、教材構造図との接続を図って目指す子供像に迫るために、視点や方法が働くように「問いの構造」を想定した。

本小单元において目指す児童像

- 多様で大量の情報を情報通信技術で瞬時に収集し、分析・発信して活用することで観光等の産業が変化し発展していること、国民がコンピュータや携帯電話などの情報通信機器を利用することにより、いつでも、どこでも様々なサービスを楽しむことができ、生活が向上していることなどを基に、情報や情報通信技術を活用する観光等の産業の役割について理解するとともに、各種資料を通して情報を適切に調べまとめる児童。
- 観光に関する産業について、情報の種類や情報の活用の仕方等に注目して産業における情報活用の状況を捉え、国民生活と関連付けてその役割を考え表現したり、産業と国民の立場などから多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について、自分の考えを表現したりする児童。
- 社会的事象から学習問題を見出し、意欲的に追究して解決しようとするとともに、適切な情報を見極め、生活の中で情報を効果的に活用していこうとする児童。

中心概念

情報化が進む現代社会では、大量の情報や情報通信技術の活用によって観光産業をはじめとする産業が発展して様々なサービスが提供されることで、国民生活の利便性が向上している。

**問い** 私たちの生活にどのような影響があるのだろうか。  
【国民生活との関連】

**学習問題** マーケティング会社Aの人々は、情報を使ってどのように観光客を増やそうとしているのだろうか。

問いの構造と概念的知識の関係

**問い** マーケティング会社Aの人は、観光客を増やすためにどのような情報を集めて活用しているのだろうか？  
【情報の種類】  
【情報通信技術】

多様で大量の情報を情報通信技術で瞬時に収集し、分析・発信して観光産業を盛んにするために、目的に応じて情報を分析したり活用したりしている。

**問い** マーケティング会社Aの人は、集めた情報をどのように活用して観光客を増やそうとしているのだろうか？  
【情報活用の仕方】

マーケティング会社Aは、観光客を増やすために、集めた情報の分析結果を活用して様々なサービスを生み出したり発信したりしている。

**問い** マーケティング会社Aの人が情報を活用することで、熊本の観光産業はどのように変わったのだろうか？  
【観光産業の変化】  
【サービスの変化】

マーケティング会社Aは様々な立場の人が協力して新たなサービスを生み出したり発信したりして観光客を増やしたり売り上げを高めたりしている。

**問い** 情報を観光に生かしているのは熊本だけなのだろうか？  
【全国への広がり】  
【国民生活との関連】

国民がコンピュータや情報通信機器を利用することで、いつでもどこでも様々な観光サービスを利用できる仕組みが整い始めている。

**問い** 情報化が進む社会の中で、私たちはどのように活用していけばいいのだろうか。  
【国民生活との関連】

産業に関わる人々は、社会の中で大量の情報を活用して産業を発展させて国民生活の利便性が向上する一方で、私たちに伝えられる情報には誤った情報や恣意的な情報などがあったり、ポイントカードなどを活用することで無意識のうちに購買情報などが収集・活用されたりしている。

②問題解決の過程に即して問いを想定するとともに、対話的な学びを促す学習活動を設定し、以下の表に、目指す子供像と主な教材とともに整理した。

	目指す児童像の具体的な姿と評価方法	追究の視点や方法に基づいた「問い」	教材の工夫	学習活動などの指導法の工夫
つかむ	〈目指す児童像〉 熊本における観光客を増やす取組について情報の活用と結びつけて考えることで問題意識を高め、学習問題を設定し、予想を立てている。	・熊本地震によって観光にどのような影響があったのだろうか。 ・どんなことをすれば、観光客を増やすことができるのだろうか。 【観光産業との関連】	○時間的・空間的・相互関係的な視点をふまえた教材 【時間的な視点の教材】 ・熊本県の観光客数の変化のグラフ ・震災後に観光ニーズに応じて復興させたホテルや商店の写真 ⇒熊本地震の前と後の変化に着目できる教材	○対話的に学び、多角的に考えるための工夫 ・熊本における観光客数の変化について情報の活用と結びつけて話し合うことで予想をし、問いの形にまとめて学習計画を立てる。
調べる	〈目指す児童像〉 大量の情報や情報通信技術の活用は、熊本の観光産業を発展させていることについて理解をしている。	・観光客を増やすためにどのような情報を集めて活用しているのだろうか。 【情報の種類】 ・集めた情報をどのような情報技術を使ってどのように活用しているのか。 【情報技術・情報の活用の仕方】 ・情報を活用することで熊本の観光産業はどのように変わったのか。 【観光産業の変化】	○時間的・空間的・相互関係的な視点をふまえた教材 【相互関係的な視点の教材】 ・マーケティング会社Aに情報提供する企業と情報の種類 ・マーケティング会社Aの情報活用の流れが分かる図 ・マーケティング会社Aの情報活用の流れ図と働く人々の仕事の紹介 ⇒情報の種類の相互関係や情報活用の仕方、様々な人の関係に着目して調べられる教材	○対話的に学び、多角的に考えるための工夫 ・調べた事実を基に、問いに対する考えをグループやクラス全体で話し合うことで、情報を活用する熊本の観光産業の様子について理解を深めていく。
まとめる	〈目指す児童像〉 情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割について考えている。	・情報を観光に生かしているのは熊本だけなのだろうか。 【全国への広がり】 ・観光産業が情報を活用して発展することで国民生活にどのような影響があるのか。 【国民生活との関連】	○時間的・空間的・相互関係的な視点をふまえた教材 【空間的な視点の教材】 ・情報アプリを活用して観光情報を発信している地域を位置付けた日本地図 ⇒情報を活用した観光地の分布に着目して調べられる教材	○対話的に学び、多角的に考えるための工夫 ・自分が発信した情報が自分へと還元されていく様子について関連図にまとめ、国民生活への影響について話し合う。
いかす	〈目指す児童像〉 産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について考えようとしている。	・観光産業以外では大量の情報をどのように活用しているのだろうか。 【他の産業との比較】 ・情報化が進展する社会の中で、私たちは情報をどのように活用していけばよいだろうか。 【国民生活との関連】	○社会の課題を意識して実社会とつながる教材 ・運輸・販売・医療の産業で情報を活用している事例 ⇒情報化の進展に伴う産業の発展に着目して調べられる教材	○対話的に学び、多角的に考えるための工夫 ・情報化の進展のプラス面とマイナス面についてTチャートに整理し、自分の関わり方を話し合うことを通して、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について考える。

5 小単元の指導計画と評価計画 (8時間扱い)

	ねらい (着目する視点や方法)	○主な学習活動 問 ・予想される児童の反応	教師の指導・支援 (□留意点◎資料◆評価)
オリエンテーション	①日常生活の中で情報が活用されている場面や得られる情報の入手方法について話し合い、情報と生活との関連に関心をもつ。 <b>(情報の伝達方法や活用方法の変化)</b>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">わたしたちはくらしの中で情報をどのように活用しているのだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○普段の生活で、どのような情報をどのように手に入れているか読み取る。</li> <li>○テレビやラジオ、新聞、雑誌、インターネットがない時代の情報の活用の仕方と比べて変化の様子について話し合う。</li> <li>・旅行に行こうとする時、昔はパンフレットや本を見て電話で観光協会の人に聞いたり、電話で予約するか、旅行代理店で予約をしたりしていた。今は、遠くの場所のいろいろな情報が、インターネットですぐに分かるし、お店に行かなくてもインターネットで申し込めて便利になった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎身の回りの情報を表したイラスト(教育出版教科書)</li> <li>◎昭和の様子がわかる映像2分程度の視聴</li> <li>◎東京オリンピックの頃の情報活用の様子と現在の情報活用の様子を表したイラスト資料</li> <li>□インターネットの発達により、自分たちの生活での利便性が増したことに気付けるようにする。</li> </ul>
つかむ	①熊本地震によって観光産業にどのような影響があったのかを捉える。 <b>(震災前後の比較)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「熊本地震の資料」を見てわかったことや感じたことを発表する。(熊本地震後、観光客減の資料)</li> <li>・ずいぶん減っている。熊本城もボロボロだ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">熊本地震によって観光にどのような影響があったのだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○熊本地震の影響を、観光客数や観光産業に関わる人々の願いから読み取る。</li> <li>・観光客が増えることはたくさんの人たちの願いだ。</li> <li>○観光客を戻すために、だれが、どのような取り組みをしているのかを読み取る。</li> <li>・マーケティング会社Aが新しい取組を進めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□前時とのつながりを考え、ニュース番組で紹介する。</li> <li>□観光地の被害写真「熊本城、阿蘇、黒川温泉、市内商店街等」を活用する。</li> <li>◎熊本地震前後の観光客数</li> <li>◎「市役所の人のお話」</li> <li>◎「マーケティング会社AKさんのお話」</li> <li>◆関①(発言・ノート)</li> </ul>
	②情報を活用した観光客を増やす取り組みについて話し合い、学習問題をつくり、学習計画を立てる。 <b>(情報活用の仕方)(情報の種類)(産業の変化)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○観光客を増やす方を予想して話し合う。</li> <li>・インターネットでたくさんの人に知らせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">学習問題: マーケティング会社Aの人々は、情報を使ってどのように観光客を増やそうとしているのだろうか。</div> <p>〈予想〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光産業に関わる人たちに情報を送って、観光客を増やそうとしていると思う。</li> <li>・観光客のニーズに合わせたものを開発して、観光客を増やそうとしていると思う。</li> </ul> <p>〈学習計画〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客を増やすためにどのような情報を集め、どのように活用しているのだろうか。</li> <li>・情報を活用することで観光にどのような変化があったのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□疑問や調べていきたいことを分類・整理して学習問題につなげる。</li> <li>□学習問題の解決に向けて調べることを問いの形で整理して、学習計画を立てる。</li> <li>◆思①(発言・ノート)</li> </ul>
調べ	③マーケティング会社Aがどのような情報を集めて活用しているのか、資料集を用いて調べ、集めて	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">観光客を増やすためにどのような情報を集めているのだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○マーケティング会社Aがどのような情報を集めているのか調べる。</li> <li>・位置データもあるよ。</li> <li>・販売データや食品成分データがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□資料から調べたことをノートに記録したり話し合ってから確かめたりする。</li> <li>◎データ活用資料(目的地検索情報、食品表示情報、購買情報、人口移動情報、国際GDP情報)</li> </ul>

<p>る</p>	<p>活用されている情報の種類を理解する。 <b>(情報の種類)</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の移動データもある。</li> <li>○調べた情報の種類について話し合い、情報の目的を関連付け、理由を話し合う。</li> <li>・情報は自動でたくさん集まるようになっている。</li> <li>・目的に応じて違う種類の情報を組み合わせて分析している。</li> <li>・関係ないような情報もたくさん集められていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎データの種類の資料</li> <li>◎データソースの映像資料</li> <li>◎データの分析事例</li> <li>◆技①知①(発言・ノート)</li> </ul>
	<p>④マーケティング会社Aが集めた情報を分析し、分析結果を活用して外国人観光客を増やす取組をしていることを理解する。 <b>(情報技術・情報活用の仕方)</b></p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">マーケティング会社Aの人達は、外国人の観光情報を分析して何をしたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○外国人観光客の増加に向けた対策を考えるためにどのような情報が必要かを話し合う。</li> <li>・外国人の移動情報 ・外国人の販売情報など</li> <li>○最近導入された情報決済システムの仕組みを調べて分かったことを関連図に整理する。</li> <li>・情報決済システムはスマホを通して購入者と販売者と銀行を瞬時に繋ぐことができる。</li> <li>○情報決済システムを導入するよさについて話し合う。</li> <li>・お金を使わずに買い物できる仕組みになった。</li> <li>・情報決済システムで決済スピードが速くなる。</li> <li>・買いたいものを買うことができるようになる。</li> <li>○情報決済システムを導入したあとの変化を確かめ感想を書く。</li> <li>・情報決済システムの導入で便利になり売り上げも上がった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎「外国人の観光客数の推移」(グラフ)</li> <li>◎「お店の人の願い」</li> <li>◎「情報決済システム開発資料」</li> <li>□中国人観光客が利用する情報端末に絞る。</li> <li>□アリペイ導入の効果は、店の人の立場、観光客の立場の両方から考えられるようにする。</li> <li>◎「お店の人、外国人観光客、マーケティング会社Aの人の話」</li> <li>□熊本の観光にかかわる人たちの願いを基に活用されていることをおさえる。</li> <li>◆技①知①(発言・ノート)</li> </ul>
<p>まとめ</p>	<p>⑤マーケティング会社Aが集めた情報を利用して熊本の観光産業はどのように変わったのかを理解し、調べたことを整理して学習問題に対する自分の考えをまとめ、観光産業等が情報を利用して発展することで国民生活に影響があることを理解する。 <b>(産業の変化)</b></p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">マーケティング会社Aの人は集めた情報を利用してどのように熊本を紹介しているのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○おるとくまもとによる情報発信の仕方を調べる。</li> <li>・商品開発やプラン提案、ホテル予約など観光客が見やすく熊本を旅行したくなる情報発信をしている。</li> <li>・HPのアクセス数や売り上げも増えている。</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">調べたことをまとめて学習問題の答えを考えよ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○マーケティング会社Aの情報を活用した取組について関連図にまとめる。</li> <li>・情報収集→情報分析→方策提案→情報発信の流れがある。</li> <li>・国民が活用すると情報が集まって分析されている。</li> <li>○関連図を見て学習問題の答えを考えて話し合う。</li> <li>・マーケティング会社Aの人たちは、多様で大量の情報を分析したり情報通信技術の活用したりして、情報決済システムなどの新しいサービスを提供したり熊本のよさをホームページで発信したりして観光客を増やそうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□情報を活用しての観光産業の変化(成果)をまとめる。</li> <li>◎HP「おるとくまもと」</li> <li>◎マーケティング会社Aの人の話</li> <li>◆技①知①(発言・ノート)</li> <li>◎ワークシート</li> <li>◎これまでの配付資料</li> <li>□情報の活用の流れに即して関連をまとめさせる。</li> <li>□関連図の内容に基づいて学習問題の答えを考えるように助言する。</li> <li>◆思・判・表(ワークシート)</li> </ul>
	<p>⑥</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">情報を観光に生かしているのは熊本だけなのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日本各地の観光地の取組の広がり確かめ合う。</li> <li>・日本各地に熊本のようなDMOが151箇所もあって情報を発信して観光を盛んにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎「日本各地のDMA」地図</li> <li>□DMOの数や全国への広がりを地図で確かめる。</li> <li>◎マーケティング会社Aの関連図</li> <li>◎「観光プラットホーム」の</li> </ul>

	<p>(国民生活との関連に着目) (社会的事象を比較・関連)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの観光地もHPで情報を発信している。</li> <li>○観光地プラットフォームがどのように活用されているのかを調べる。</li> <li>・観光プラットフォームでは、観光客数の予報や観光情報が見ることができるようになっている。</li> <li>・観光プラットフォームはたくさんの宿泊情報を分析して、情報発信している。</li> <li>・観光プラットフォームはオープンデータで誰もが使える情報である。</li> <li>○観光プラットフォームを利用して売り上げを高めている事例を通して観光プラットフォームのよさについて話し合う。</li> <li>・観光客数の予測が正確だから仕入れに無駄がない。</li> <li>・観光予報は観光地のお店やホテルの人に役に立つ。</li> <li>・観光地の情報を見られるから観光客も便利だ。</li> <li>○飲食店Cの事例について観光客にとってのメリットを話し合う。</li> <li>・たくさんの人が情報を観光に活用して発信することで、私たち国民が旅行する時に役立っている。</li> <li>・外国の旅行客が困っていることを解決しているから観光客が増えている。</li> <li>・日本中で情報活用できる仕組みが整い始めている。</li> </ul>	<p>概要の資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「観光プラットフォームのコンテスト結果」</li> <li>□実際の観光プラットフォームの画面をPCで操作してその利点をマーケティング会社Aと比較する。</li> <li>◎「伊勢市の飲食店C」の動画</li> <li>□店の人が情報をどう活用したのかを読み取らせる。</li> <li>□観光客にどのような利点が生まれているのかを振り返らせる。</li> <li>◎マーケティング会社Aの関連図</li> <li>◎観光プラットフォームのアクセス数</li> <li>□伊勢市の飲食店Cの事例について国民と関連付けてよさを考えさせる。</li> <li>◆思②技②知② (関連図、ノート)</li> </ul>
<p>いかす</p>	<p>⑦⑧ 様々な産業で大量の情報を活用してサービスの向上に努めていることを捉え、学習を振り返って、これから情報をどのように活用していけばよいかを考える。</p>	<p>観光以外の産業では、大量の情報をどのように活用しているのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○社会の中で大量の情報を活用して産業を発展させていこうとする事例について選択して調べる。</li> <li>A 販売：POSシステムを活用したコンビニ営業</li> <li>B 運輸：交通情報を活用したバス交通システム</li> <li>C 医療：臨床データを活用した資料技術の改善</li> <li>D 福祉：ICチップを活用した高齢者見守りシステム</li> <li>○それぞれの事例で大量の情報を活用して産業が発展することのプラス面とマイナス面を発表し合っ てTチャートにまとめる。</li> </ul> <p>情報化が進展する社会の中で、私たちは情報をどのように活用していけばよいだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○これからの国民の関わり方について自分の考えを書いて話し合う。</li> <li>・大量の情報を活用して産業が発展するとともに国民生活の利便性が向上する一方で、情報を活用する私 たちには、適切な情報を見極めていくことが求めら れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎4つの事例についての文書資料や映像資料</li> <li>□情報を活用して運輸・販売・医療・福祉の産業で今後の発展を支える事例を資料化して提示して、選択して調べることができるようにする。</li> <li>◎大量の情報を分析・活用・発信している人からの情報の危険性についての話</li> <li>□情報化進展のプラス面とマイナス面でTチャートに整理し、自分の関わり方を話し合う。</li> <li>◎Tチャート付きワークシート</li> <li>◆関②思③ (Tチャート・発言)</li> </ul>

## 7 本時の学習（4/8時間）

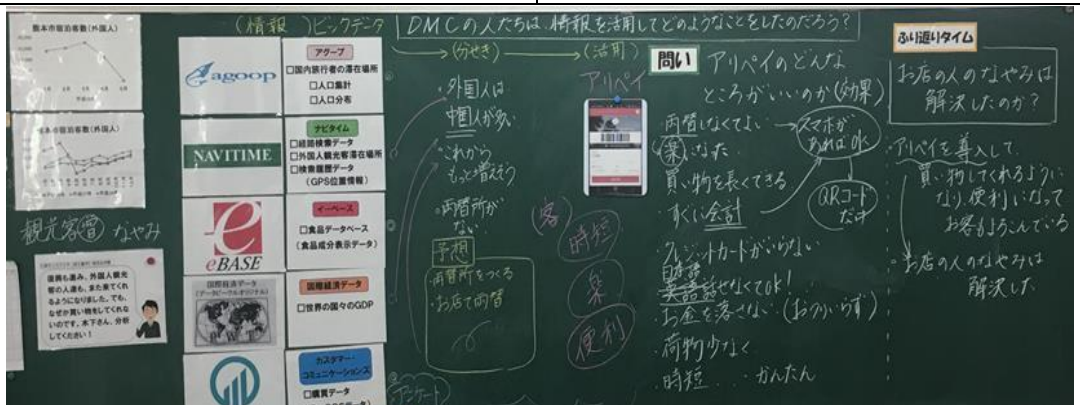
### （1）本時のねらい

マーケティング会社Aが集めた情報の分析結果を生かして観光客を増やそうとしていることを理解する。

### （2）本時の展開

	○主な学習活動 ・児童の予想される反応	□指導上の留意点 ◎資料 ◆評価（評価方法）
導入	<p>○マーケティング会社Aがもっているビックデータを確認する。</p> <p>○外国人観光客が買い物をしない理由を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国人観光客が増えても観光地のお店で買わない。</li> <li>現金がなく、電子決済をしたいことがわかった。</li> </ul> <p>マーケティング会社Aは、外国人の観光情報を分析して何をしたのだろうか。</p> <p>○予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>両替所を作っていると思う。</li> <li>いくつかの情報をかけ合わせたのではないかな。</li> </ul>	<p>◎「外国人の観光客数の推移」（グラフ）</p> <p>◎「お店の人の話（悩み）」</p> <p>□前時の学習を基にどのような情報を分析したか予想し合う。</p> <p>□予想する際は、前時の「情報の種類」をもとにするよう言葉掛けをする。</p>
展開	<p>○情報決済システムの仕組みについて調べる。</p> <p>（画面）・バーコードがある。</p> <p>（説明文）・スイカみたいだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>お金が書いてある。・お金を持たなくてもよい。</li> </ul> <p>○調べたことを発表し合い決済の仕組みを確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光客がもっているスマホで決済できる。</li> <li>お店もバーコード読み取りすれば簡単決済できる。</li> <li>観光客、店、銀行がネットワークで瞬時につながる。</li> </ul>	<p>◎「情報決済システムの概要の資料」</p> <p>□本時は中国人観光客に絞った活用であることをおさえる。</p> <p>◆情報決済システムの仕組みについて資料を活用して読み取っている。（ノート・発言）[技①]</p> <p>□発言を板書してネットワーク決済の仕組みを関連図にまとめる。</p>
	<p>○情報決済システムのよさについて話し合う。</p> <p>&lt;お店の人&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国人観光客が買い物をするようになる。</li> <li>品物が売れることで収益が上がる。</li> <li>決済スピードが速くなる。</li> <li>他の国の人も使えるとよいと思っている。</li> </ul> <p>&lt;外国人観光客&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>簡単に買い物できるようになる。</li> <li>買いたいものを買うことができるようになる。</li> <li>旅行をより楽しめるようになる。</li> </ul> <p>&lt;マーケティング会社A&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報決済システムを導入する店が63店舗まで増えた。</li> </ul>	<p>□店の人の立場、観光客の両方の立場から考えられるようにする。</p> <p>□情報決済システムの概要資料を根拠に考えるよう言葉掛けをする。</p> <p>□考えたことをグループで交流し、ホワイトボードにまとめさせる。</p> <p>◎「店の人、外国人観光客、マーケティング会社Aの人の話」</p> <p>□店の人、外国人観光客、マーケティング会社Aの話から、情報決済システムを使えるようにしたことでどちらの立場も利便性が高まったことをおさえる。</p>
終末	<p>○本時の学習で自分の考えたことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マーケティング会社Aは、外国人観光客の情報を分析し、情報決済システムを使えるようにした。情報決済システムを使えるようにしたことで、お店の人も外国人観光客も便利になり、買い物をする外国人観光客が増え、売り上げもあがった。</li> </ul>	<p>□熊本の観光に関わる人たちの願いを基に活用されていることをおさえる。</p> <p>◆マーケティング会社Aが集めた情報どのように活用しているかを理解している。（ノート・発言）[知①]</p>

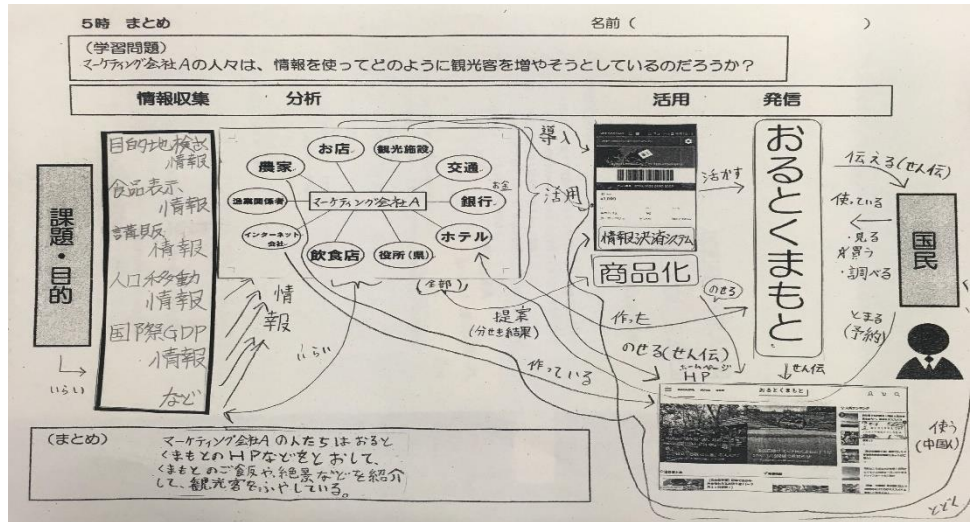
### （3）板書計画





## 7 実践のポイント 「まとめる」段階 (6/8)

マーケティング会社Aの取組を、情報の活用の流れに即して関連図にまとめたことで、情報収集から情報分析、方策の提案から情報発信という一連の流れを理解することが



できた。そこで児童は、「自分達の情報が基になって分析されている。」「情報を発信するためにはたくさんの人達が協力し合っている。」などの意見が出た。大量の情報が活用されて国民(自分たちの)生活の向上につながることを理解することができた。

**A児** マーケティング会社Aでは、色々な立場の人がみんな協力したり、情報通信機器による決済システムの活用やHP「おるとくまもと」を使って情報を発信したりして、使って観光客を増やそうとしていたりしている。

**B児** マーケティング会社Aの人たちは、熊本の観光に関わる人やもっと熊本のことを知りたい人などの願いを受けて、情報分析や活用をし、たくさんの人に向けてHPなどで情報を発信することで観光客を増やそうとしている。

## 「いかす」段階 (8/8)

8時: 情報を生かす観光産業  
情報が進展する中で、私たちがどのように活用していけばいいだろうか?  
② ① 私たちにとって情報は便利になったり効率がよくなったりするけれど、安全に使う情報が増えれば悪用されたり使えなくなったりすることもある。  
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

自分の考え ⇄ 友達の考え ⇄ クラスの考え ⇄ (ふり返り)  
担当④  
販 [ ⑦ ⑧ ]  
福 [ ① ③ ]  
医 [ ② ④ ]  
本 [ ⑤ ⑥ ]

他の産業  
販売業  
福祉産業  
医療産業  
産業

発表  
本連の班は①課  
はつておこなった。  
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧  
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧  
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧  
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

便利  
危険  
費用  
不便

情報活用のメリット  
情報活用のデメリット

学習を振り返り、情報をどのように活用していけばよいか考える時間を設定した。情報を活用している他の分野(交通、販売、医療、福祉)を選択して調べることで様々な分野での今後の発展と危険性を知り、自分たちが生活する社会の現状を考えることができた。また、Tチャートにメリットとデメリットに分けて考えをまとめることにより、「便利だけれど悪用される恐れがある。」「便利だけれど間違った情報もあるからどちらにも対応することが大切だ。」という情報との関わり方を情報を活用する産業に関わる立場と国民の立場などから多角的に考えることができた。

**A児** 私たちにとって情報はとても便利なので、これからは付き合いがかなければならないものですが、悪用されたり、プライバシーの問題もあつたりするので、自分で対応できるように考えて活用していけばよい。

**B児** 私たちにとって情報は便利だけれどよくないこともあるので、自分で確かめ、よく考えて安全に使うことが重要だと思う。

## 8 考察

### (1) 問題解決の中で対話的な学び、多角的に考える学習活動の工夫

観光産業に携わる様々な人々と自分との関わりを関連的に考えることができるようにするため、「まとめる」段階で関連図にしてまとめたことが、情報産業と国民生活への影響について児童が話し合う時に、考えを深めるための思考の整理につながった。また、自分たちの情報も使われるが、国民生活が便利になっていくことに気付き社会の進展に期待をもつ児童が増えた。

### (2) 確かな社会認識をもとに、社会の発展を考える「いかす」場面の設定

児童に「情報化が進展する社会の中で、情報をどのように活用していけばよいか。」という問いをもたせ、情報産業に関わる人たちの立場と、国民の立場から考えさせた。そこでは、これからの情報産業の発展と国民生活の向上に大切なことについて他の産業と比較・関連することで、自分と実社会がどのようにつながっていくとよいかを考えることができた。

### (3) 児童に育成される資質・能力の評価方法の工夫

目指す子供像に迫ることができたかについて、評価方法を工夫し、研究の手立ての有効性を分析していった。特に、毎時の振り返りを一覧で配布して前時の児童の考えを全体で共有するとともに、「つかむ」段階での子供の考えと「まとめる」段階における子供の記述を比較したり、「まとめる」段階と「いかす」段階での発言や記述を比較したりしながら、児童が産業の発展や国民生活の向上をどのように考えているのかという観点で評価をすることができた。

## V 研究の成果と課題

### 1 研究の成果

#### (1) 社会生活についての理解を深め、社会との関わりを見つめ直す教材の工夫

今年度は「米づくりのさかんな地域」、「情報を活用して発展する観光産業」について教材開発を行った。どちらの実践でも社会の発展のために熱意をもって働く人の姿が見える事例を取り上げたことで、子供たちは時間的な視点や空間的な視点、相互関係の視点を働かせながら、生産者や消費者、情報産業で働く人とそれにかかわる人々や消費者など様々な立場から学ぶことで、社会との関わりを見つめ直すことができたと考える。

#### (2) 社会的事象の見方・考え方を働かせて追究する指導の工夫

2実践ともに「まとめる」段階で、関連図やチャート図などの思考ツールを活用して児童に相互関係的な視点を働かせることで、様々な立場の人との関わりがあることに気付くことにつながった。さらに、どちらの実践でも、産業に関わる人々と国民の立場から考えさせる「いかす」段階を設定し、自分と産業との関わりについて学ぶことで、農業や情報産業の発展への関心が高まり、これからの社会の在り方について、自分とのかかわりを意識して考えられるようになった。

### 2 研究の課題

社会的事象の見方・考え方を意識した「問い」の設定や、思考を促す学習活動の工夫は有効であったが、いかす段階でいかに自分事として考えさせることができるかに関しては、さらに検討していく必要がある。また、新学習指導要領に関わる観光産業の小単位では、分野独特の用語の難しさとそれを多用した資料の簡易化に大きな難しさがああり、指導者側も用語・語句を理解しながら資料化を図る必要があった。また、児童に育成される資質・能力の評価方法の工夫に関してについては今

後も研究を継続・充実させていく必要がある。